

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【日本赤十字社への申請】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		臨床検査技師養成教育における輸血検査実習	新江 賢	杏林大学 保健学部 臨床検査技術学科	准教授	①	①	赤血球8バッグ、血漿8バッグ
2		検査用の精度管理用コントロールの製造	山本 恵司	オリエンタル酵母工業(株)	取締役 バイオ事業本部長	②	②	検査残余血清258000mL
3		ヒト血漿セレノプロテインPの精製およびその機能解析	斎藤 芳郎	東北大学大学院 薬学研究科	教授	②	①	血漿10バッグ、血漿5145mL
4		茨城県臨床検査技師会による所属施設への輸血検査業務支援(精度管理)	岩田 幸広	(公社)茨城県臨床検査技師会	生命倫理検査部門 輸血・移植検査分野 分野長	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿526mL
5		富山県臨床検査精度管理協議会	村上 美也子	富山県臨床検査精度管理協議会	医師	①	①	赤血球3バッグ、血漿476mL
6		愛知県臨床検査精度管理調査(輸血検査部門)	藤田 孝	公益社団法人 愛知県臨床検査技師会	会長	①	①②	赤血球1バッグ、血漿1718mL、検査残余全血7本
7		愛知県臨床検査技師会 輸血検査研究班 基礎講座	藤田 孝	公益社団法人 愛知県臨床検査技師会	会長	①	①②	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿320mL、検査残余全血16本
8		輸血検査の実習	畠山 真奈美	北海道医学技術専門学校	教員	①	①	赤血球12バッグ、血漿1バッグ
9		認定輸血検査技師協議会認定試験	加藤 栄史	認定輸血検査技師協議会	試験委員長	①	①	赤血球9バッグ、血漿6バッグ
10		医学部学生の血液型判定の実習	横須賀 忠	東京医科大学 免疫学分野	主任教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
11		国家検定、取去試験、および規格試験の実施	池辺 詠美	国立健康危機管理研究機構	主任研究員	①②	②	検査残余全血15本
12		臨床免疫学実習における輸血検査の指導	中村 潤子	埼玉県立大学	准教授	①	①②	赤血球10バッグ、血漿10バッグ、全血セグメント88本
13		抗血小板抗体検出試薬製造に必要な有効期限切血小板製剤について	松本 佳明	ベックマン・コールター・三島株式会社 テクニカルオペレーション2グループ	マネージャー	②	①	血小板398バッグ
14		マラリア原虫のガメトサイト形成機構の解明	茂井 宏実	北里大学 獣医学部	教授	②	①	赤血球12バッグ
15		輸血検査部門の精度管理	松田 晃一	一般社団法人 徳島県臨床検査技師会	精度管理委員会 輸血検査部門責任者	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿257mL
16		埼玉県医師会臨床検査精度管理事業	金井 忠男	埼玉県医師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿5バッグ、血漿616mL
17		抗マラリア原虫薬の開発	渡邊 信元	国立研究開発法人理化学研究所 環境資源科学研究中心	研究パートタイマー1	②	①	赤血球9バッグ
18		卒前卒後医学教育(輸血検査実習)	山崎 理絵	慶應義塾大学病院 輸血・細胞療法センター	教授	①	①	赤血球5バッグ、血漿2バッグ
19		マラリア原虫感染後の赤血球内部に構築される膜に対する機能解析	早川 枝李	自治医科大学 医学部 医動物学部門	助教	②	①	赤血球17バッグ、血漿6バッグ
20		栃木県臨床検査精度管理調査	長島 徹	一般社団法人 栃木県医師会	副会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿250mL
21		輸血・移植検査学実習	登尾 一平	学校法人 銀杏学園 熊本保健科学大学 医学検査学科	准教授	①	①	赤血球6バッグ、血漿1バッグ、血漿917mL、血小板1バッグ
22		アミノ酸制御による新規のマラリア治療・予防法の開発研究	嘉禎 洋陸	東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座	教授	②	①②	赤血球12バッグ、血漿10バッグ、検査残余血清300本
23		学生実習(輸血検査学実習)	橋本 一郎	徳島大学 医学部	徳島大学医学部長	①	①②	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、血漿221mL、全血セグメント160本、検査残余全血40本
24		日本輸血・細胞治療学会認定医制度認定試験	石田 明	日本輸血・細胞治療学会	認定医制度審議会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ
25		ABO式血液型の判定	古屋 秀樹	山口県警察本部 科学捜査研究所	所長	②	②	検査残余全血144本
26		学生実習(血液型、不規則抗体検査、交差適合試験)	小野寺 利恵	山陽女子短期大学 臨床検査科	准教授	①	①②	赤血球 11 バッグ、血漿 3 バッグ、血漿 1927mL、検査残余全血17本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
27		学生の輸血検査学実習	山田 久	学校法人明経学園 美萩野臨床医学専門学校	教員	①	①	赤血球1バッグ、血漿251mL
28		献血血液を用いた医学部での教育研修	高橋 直人	秋田大学医学部附属病院 輸血細胞治療・移植再生医療センター	教授 輸血部長	①	①	血漿254mL
29		福島県臨床検査技師会 学術部輸血・移植検査部門における教育	藤田 沙耶花	一般社団法人 福島県臨床検査技師会	輸血・移植検査部門長	①	①	赤血球3バッグ、血漿448mL
30		マラリア原虫のゲノム情報に立脚した新規の診断、治療、予防法の開発研究	西川 義文	帯広畜産大学 原虫病研究センター	教授	②	①	赤血球6バッグ、血漿バッグ
31		石川県臨床衛生検査技師会輸血検査研究班実技研修会	滝野 豊	石川県臨床衛生検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ
32		大分県医師会精度管理調査(輸血検査)	河野 幸治	一般社団法人 大分県医師会	会長	①	①	赤血球5バッグ、血漿2バッグ、血漿1023mL
33		岡山県精度管理調査(輸血部門)	藤岡 克徳	一般社団法人 岡山県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿1303mL
34		臨床検査精度管理調査	倉島 祥子	一般社団法人 長野県臨床検査技師会	精度管理事業部長	①	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ
35		山口県精度管理調査	楢林 秀紀	一般社団法人 山口県臨床検査技師会	臨床検査技師	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿665mL
36		輸血・移植検査学実習(神戸常盤大学保健科学部医療検査学科の学生実習)	坂本 秀生	神戸常盤大学 保健科学部医療検査学科	学科長	①	①②	赤血球11バッグ、血漿3バッグ、血漿531mL、検査残余全血40本
37		輸血検査学実習	泉田 洋志	京都保健衛生専門学校 臨床検査学科	教務部長	①	①	赤血球12バッグ、血漿3バッグ、血漿791mL
38		法医学実務、薬毒物分析センター実務、及び薬毒物分析法確立のため使用する。	岩井 雅枝	愛知医科大学 医学部 法医学	助教	②	②	検査残余全血80本
39		岩臨技輸血・移植部門研修会	高館 潤子	岩手県臨床衛生検査技師会	輸血・移植部門担当	①	①	赤血球3バッグ、血漿451mL
40		岩臨技精度管理事業 輸血・移植部門	高館 潤子	岩手県臨床衛生検査技師会	輸血・移植部門担当	①	①	血漿2バッグ、血漿623mL
41		新潟県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門 実技講習会	大倉 一晃	新潟県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長	①	②	検査残余全血17本
42		免疫検査学実習	望月 泰男	昭和医療技術専門学校 臨床検査技師科 教務課	副校長	①	①	赤血球12バッグ、血漿9バッグ
43		九州・沖縄地区臨床検査精度管理事業	國崎 祐哉	九州臨床検査精度管理研究会	会長	①	①	赤血球12バッグ、血漿15バッグ、血漿4855mL
44		公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会 輸血研究班活動	大塚 真哉	公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会	輸血研究班長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿295mL
45		静岡県臨床検査精度管理調査	中島 裕美	静岡県臨床検査精度管理委員会	臨床検査技師	①	①	赤血球3バッグ、血漿743mL
46		質の高い輸血学教育研修の実践	大友 直樹	東京科学大学病院 輸血・細胞治療センター	臨床検査技師長	①	①	赤血球8バッグ、血漿7バッグ
47		本学 輸血検査実習	栗林 浩子	昭和医科大学病院 輸血センター	臨床検査技師	①	①	赤血球81バッグ
48		学生実習(臨床免疫学における輸血検査実習)	国分寺 晃	広島国際大学	教授	①	①	赤血球6バッグ、血漿2バッグ、血漿923mL
49		輸血テクニカルセミナー2026実技講習会	松本 雅則	日本輸血・細胞治療学会	理事長	①	①	赤血球7バッグ、血漿4バッグ
50		二級臨床検査士免疫血清学、緊急臨床検査士資格認定試験および免疫血清学技術講習会	宮地 勇人	公益社団法人 日本臨床検査同学院	理事長	①	①	赤血球 30 バッグ、血漿 31 バッグ、血漿 683mL、
51		佐賀県臨床検査技師会輸血実技研修会	山田 麻里江	(一社)佐賀県臨床検査技師会	輸血部門 生涯教育研修委員	①	①	赤血球3バッグ、血漿486mL
52		多項目実用参照物質の作製と評価	篠原 克幸	公益社団法人 日本臨床検査標準協議会	多項目実用参照物質委員会副委員長	①	②	検査残余血清10000mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血液の使用目的 (※1)	献血液の区分 (※2)	献血液の種類、量など
53		熱帯熱マラリア原虫人工染色体による遺伝子ライブラリー作製とそれをを用いた薬剤耐性遺伝子の同定	岩永 史朗	大阪大学微生物病研究所	教授	②	①	赤血球75バッグ、血漿41バッグ、血漿8754mL、血小板444mL
54		感染症流行予測調査	大塚 和子	厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課	感染症情報管理室長	②	②	検査残余血清927本
55		臨床検査技師養成教育における輸血検査実習	福福 全人	学校法人湘央学園 湘央医学技術専門学校	校長	①	①	赤血球19バッグ、血漿4バッグ
56		精度改善事業	佐藤 泰之	一般社団法人 神奈川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿7バッグ
57		輸血・血液型検査実習	佐藤 泰之	一般社団法人 神奈川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球3バッグ、血漿4バッグ
58		マラリア原虫の分子細胞生物学的解析および時空間的動態解析	金子 修	長崎大学熱帯医学研究所	教授	②	①	赤血球53バッグ、血漿20バッグ、血漿441mL
59		学生教育における血液型実習	塚 正彦	金沢大学 医薬保健研究域 医学系	教授	①	②	検査残余全血15本
60		輸血教育学	杉山 芳樹	東京医学技術専門学校	学校長	①	①	赤血球10バッグ、血漿8バッグ
61		(一社)鳥根県臨床検査技師会 精度管理調査 輸血検査部門	領家 敬子	(一社)鳥根県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球3バッグ、血漿454mL
62		佐賀県医師会臨床検査精度管理調査	枝園 源一郎	公益財団法人 佐賀県健康づくり財団	副理事長(臨床検査担当理事)	①	①	赤血球4バッグ、血漿707mL
63		滋賀県臨床検査技師会精度管理事業(輸血部会)	豊川 美文	(公社)滋賀県臨床検査技師会	滋賀県臨床検査技師会 精度管理委員 輸血部会代表	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿248mL
64		広島県臨床検査精度管理調査	松村 誠	広島県医師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1385mL
65		精度管理調査用試料として	岡村 明彦	一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿926mL
66		滋賀県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門 実技研修会	山中 博之	(公社)滋賀県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門	臨床検査技師	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿482mL
67		千葉県臨床検査技師会輸血部門精度管理	布施 義也	一般社団法人 千葉県臨床検査技師会	会長	①	①	血漿1バッグ
68		マラリアワクチンの研究	高島 英造	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター	教授	②	①	赤血球25バッグ、血漿2727mL
69		マラリア原虫の赤血球寄生分子機構の研究	橘 真由美	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター	助教	②	①	赤血球11バッグ、血漿2729mL
70		学生実習(輸血検査)	坂本 央	旭川医科大学病院 臨床検査・輸血部	部長	①	①②	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿466mL、全血セグメント80本
71		福島県臨床検査技師会 精度管理事業	渡辺 隆幸	福島県臨床検査技師会	精度管理事業部 精度管理委員長	①	①	赤血球2バッグ、血漿452mL
72		人工赤血球(赤血球代替物)の開発	小松 晃之	中央大学 理工学部	教授	①②	①	赤血球4バッグ
73		医療費適正化効果のある特定健診・特定保健指導の臨床検査に関する効果的エビデンスの提供を保證する精度管理調査試料の作製と活用	横地 常広	一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会	代表理事会長	①	②	検査残余血清70000mL
74		マラリア原虫のin vitro培養系を用いた薬剤耐性研究	本間 一	東京女子医科大学	准教授	②	①	血漿14バッグ
75		医療機器の評価	千葉 弘範	株式会社常光 医療機器開発部	部長	②	②	検査残余全血550本、検査残余血清50本
76		学生における輸血検査教育・実技講習	池田 和彦	福島県立医科大学付属病院	教授	①	①	赤血球48バッグ、血漿2954mL
77		初期研修医 輸血検査実習	大崎 浩一	雪の聖母会 聖マリア病院	輸血科 診療部長	①	①	赤血球3バッグ、血漿471mL
78		培養熱帯熱マラリア原虫を用いた薬剤標的分子の探索研究	金 惠淑	岡山大学	准教授	②	①	赤血球7バッグ、血漿420mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
79		マラリア原虫のオルガネラの解析	野崎 智義	国立大学法人 東京大学大学院 医学系研究科 生物医学化学教室	教授	②	①	赤血球24バッグ
80		新生児マスキリーニングの精度管理	但馬 剛	国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所 マスキリーニング研究室	室長	②	①	全血722mL
81		輸血実技講習会	阿部 操	公益社団法人 大阪府臨床検査技師会 学術部輸血検査部門	世話人責任者	①	①②	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿259mL、検査残余全血8本
82		東京都臨床検査技師会 輸血レベルの向上を目指した教育的実技講習会	原田 典明	公益社団法人 東京都臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球3バッグ、血漿2バッグ
83		輸血検査実習	小野 孝明	浜松医科大学医学部附属病院	輸血・細胞治療部 部長	①	①	赤血球24バッグ、血漿5095mL
84		宮城県臨床検査技師会 精度管理調査	岩木 啓太	宮城県臨床検査技師会	精度管理部長/輸血検査部門員	①	①	赤血球2バッグ、血漿947mL
85		熱帯熱マラリア原虫の赤血球侵入機構および細胞内物質輸送機構の解析	大槻 均	鳥取大学 医学部	教授	②	①	赤血球23バッグ
86		感染症検体パネルの整備	百瀬 暖佳	国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 次世代生物学的製剤研究センター	主任研究員	②	①	血漿9200mL
87		石川県医師会臨床検査精度管理調査	安田 健二	石川県医師会	医師	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿733mL
88		臨床化学検査の外部精度管理調査における最適な調査試料の作製と評価	松本 佳隆	一般社団法人 福岡県臨床衛生検査技師会	精度管理事業部長	①	②	検査残余血清10000mL
89		学生実習(輸血検査)	重松 康之	大阪医療技術学園専門学校 臨床検査技師科	学科長	①	①②	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿480mL、検査残余全血8本
90		備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	酒井 宏水	奈良県立医科大学	教授	①	①	赤血球36バッグ
91		佐賀大学医学部附属病院検査部内の実技講習会	山田 麻里江	佐賀大学医学部附属病院 検査部	係長	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿276mL
92		輸血研修会試料として使用	山城 篤	一般社団法人 沖縄県臨床検査技師会	会長	①	①	血漿1バッグ、血漿244mL
93		譲渡血液を用いた輸血移植検査学の実習	山田 武司	愛媛県立医療技術大学 保健科学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球5バッグ、血漿1バッグ、血漿686mL
94		臨床検査精度管理調査	加納 康至	一般社団法人 大阪府医師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿1619mL
95		学生実習用	三木 浩和	徳島大学病院 輸血・細胞治療部	部長	①	①②	血漿494mL、検査残余全血20本
96		埼玉県臨床検査技師会 輸血検査実技研修会	松岡 優	公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球7バッグ、血漿2バッグ、血漿511mL
97		臨床検査技師育成課程における輸血検査実習	川村 宏樹	新潟医療福祉大学 医療技術学部 臨床技術学科	教授	①	①	赤血球7バッグ、血漿2バッグ、血漿977mL
98		卒後臨床研修輸血検査実習	平野 公通	兵庫医科大学病院 卒後臨床研修センター	卒後臨床研修センター長	①	①	赤血球4バッグ、血漿906mL
99		検査試薬に対する非特異反応等回避への使用	菅 亮彦	株式会社カインス	研究所 所長	②	②	検査残余血漿300本、検査残余血清2400本
100		脳梗塞再生治療に用いる骨髄幹細胞培養に使用する血小板溶解物の作成	川堀 真人	北海道大学 大学院医学研究院 脳神経外科学教室	講師	②	①	血小板104バッグ
101		歯科臨床検査法における血液成分検査・血液型検査	西口 輝	三重県立公衆衛生学院	学院長	①	②	検査残余全血8本
102		ヒト末梢血細胞を用いた抗酸菌症の基礎研究	西村 知泰	慶應義塾大学 保健管理センター	教授	②	①	全血6361mL
103		輸血・移植検査学実習	畑中 徳子	天理大学 医療学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿954mL
104		宮城県臨床検査技師会 精度管理事業	播磨 晋太郎	宮城県臨床検査技師会	精度管理部門員	①	①	赤血球2バッグ、血漿251mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血液の使用目的 (※1)	献血液の区分 (※2)	献血液の種類、量など
105		マラリア原虫のライフサイクル分子基盤解明	美田 敏宏	順天堂大学 医学部 熱帯医学・寄生虫学講座	教授	②	①	赤血球18バッグ、血漿22バッグ
106		熱帯熱マラリア原虫の細胞内物質輸送機構の解析	入子 英幸	神戸大学大学院 保健学研究科	准教授	②	①	赤血球8バッグ、血漿2235mL
107		学生実習及び認定輸血検査技師試験研修	國崎 祐哉	九州大学病院 検査部	検査部長	①	①	赤血球1バッグ
108		血中微生物回収方法の検討に用いる試料としての献血液の使用	井上 聡	ニッターポーメディカル株式会社	メディカル研究開発センター 品質本部長	②	①	全血377mL
109		獨協医科大学病院 令和8年度臨床研修医卒後教育輸血検査実習	今井 陽一	獨協医科大学病院 輸血部	部長	①	①	赤血球20バッグ、血漿6バッグ
110		輸血検査実技講習会	宇城 研悟	一般社団法人 三重県臨床検査技師会	会長	①	①②	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿712mL、全血セグメント80本
111		iPS細胞技術に基づく同種臨床試験用巨核球細胞の樹立と血小板製剤の開発に関する研究	浅見 麻乃	株式会社メガカリオン	取締役 最高科学責任者	①②	①	血小板1バッグ
112		学生学内実習	熊取 厚志	鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部	教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ
113		日本総合健診医学会精度管理調査	丸山 雄一郎	一般社団法人 日本総合健診医学会	精度管理委員会 委員長	①②	②	検査残余血清21000mL
114		体外診断用医薬品の品質管理	柿沼 幸利	バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社	診断薬カスタマーサポート部 部長	①②	②	検査残余全血432本
115		輸血検査精度管理調査	五來 隆	株式会社カインス	学術部長	①②	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ、血漿1982mL
116		検査技師実習	廣田 雅子	東京工科大学 医療保険学部 臨床検査学科	准教授	①	①	赤血球8バッグ、血漿224mL
117		既承認体外診断用医薬品における品質管理試験	殿岡 健太郎	株式会社シマ研究所 事業部	部長	②	②	検査残余血清400本
118		熱帯熱マラリア原虫のin vitro培養系による病原機構の解明	案浦 健	国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 寄生動物部	室長	②	①	赤血球22バッグ、血漿3バッグ
119		新人臨床検査技師の技能研修	後藤 象悟	独立行政法人国立病院機構 中国四国グループ	臨床検査専門職	①	①	赤血球3バッグ、血漿498mL
120		医学部学生及び臨床研修医における輸血検査実習	豊崎 誠子	東海大学 医学部附属病院	講師	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
121		山梨県医師会精度管理事業	中川 英二	一般社団法人 山梨県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、血漿351mL
122		Wakoコントロールサーベイ(輸血検査)	高橋 かおり	富士フィルム和光純薬株式会社 臨床検査事業部 臨床検査学術開発本部 カスタマーサポート部 カスタマーサポートセンター	課長	②	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、血漿555mL
123		培養マラリア原虫を用いた簡便なマラリア原虫検出システム構築研究	橋本 宗明	国立研究開発法人産業技術総合研究所	主任研究員	②	①	赤血球10バッグ、血漿3バッグ、血漿1609mL
124		輸血・移植検査学実習に使用	柴山 修司	つくば国際大学 医療保健学部 臨床検査学科	教授	①	①②	赤血球12バッグ、血漿2バッグ、血漿501mL、全血セグメント200本
125		赤血球期マラリアを用いた新規抗マラリア薬スクリーニング	水上 修作	長崎大学熱帯医学研究所 免疫病態制御学分野	准教授	②	①	赤血球4バッグ
126		京都府臨床検査技師会 実技講習会	相田 幸雄	一般社団法人 京都府臨床検査技師会 輸血研究班	班長	①	①	赤血球3バッグ、血漿482mL
127		抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによるHTLV-1の革新的な感染予防モデルの開発とその有効性の検討	水上 拓郎	国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所	次世代生物学的製剤研究センター センター長	②	①	血漿2バッグ、血漿11540mL
128		輸血検査精度管理	伊倉 基子	三重県臨床検査技師会	輸血検査精度管理班	①	①	赤血球4バッグ、血漿729mL
129		輸血検査実技講習会	丸山 晃二	(公社)大分県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿223mL
130		初級者対象輸血検査実技研修会	南部 重一	一般社団法人 富山県臨床検査技師会	臨床検査技師、富山県臨床検査技師会会長	①	①	赤血球3バッグ、血漿521mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
131		感染症安全対策体制整備事業 輸血の安全性確保を目指した感染症安全対策体制構築のための研究	水上 拓郎	国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 次世代生物学的製剤研究センター	センター長	①②	①	全血1993mL、血漿1バッグ、血漿923mL
132		精度管理調査における献血血液の利用	桑原 喜久男	(一社)新潟県臨床検査技師会	会長	②	①	全血628mL、血漿30バッグ
133		ヘパトカインを標的とした診断薬・治療薬の開発	篁 俊成	金沢大学大学院 医学系研究科	教授	②	①	血漿20バッグ、血漿6970mL
134		輸血検査の理解と技術向上	細川 早織	高松赤十字病院 検査部	輸血課長	①	①	赤血球2バッグ、血漿242mL
135		臨床免疫学実習	小川 秀一郎	長浜バイオ大学	講師	①	①②	赤血球4バッグ、血漿253mL、検査残余全血4本
136		臨床検査学科における免疫検査学(含む輸血検査学)、臨床化学等の検査学実習	脇 英彦	森ノ宮医療大学 医療技術学部 臨床検査学科	学科長/教授	①	①②	赤血球14バッグ、血漿4バッグ、血漿1148mL、検査残余全血42本、検査残余血清200本
137		宮城県臨床検査技師会 精度管理事業	岩木 啓太	宮城県臨床検査技師会	精度管理部長	①	①	血漿242mL
138		学生に対する教育目的	藤原 実名美	東北大学病院 輸血・細胞治療部	副部長	①	②	検査残余全血420本
139		臨床検査技師養成大学における輸血・移植検査学実習	坊池 義浩	神戸学院大学 栄養学部	准教授	①	①②	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿427mL、全血セグメント159本、検査残余全血70本
140		ヒト末梢血単球を用いた免疫応答反応のメカニズム解明	齊藤 達哉	大阪大学大学院 薬学研究科	教授	②	①	全血5415mL
141		痛風・高尿酸血症リスクに関連するABCG2遺伝子の解析・Jra抗原陰性者の解析による新規リスク変異の検討	松尾 洋孝	防衛医科大学校 分子生体制御学講座	教授	②	①	全血37mL
142		関節リウマチにおける骨破壊のメカニズムに関してヒト末梢血単球を使用した研究	村田 浩一	京都大学大学院 医学研究科 リウマチ性疾患先進医療学講座	特定講師	②	②	白血球除去後フィルター4個
143		(一社)神奈川県臨床検査技師会 精度改善事業	佐藤 泰之	(一社)神奈川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ
144		学生に対する教育目的	田村 彰吾	北海道大学大学院 保健科学研究院	准教授	①	①②	赤血球3バッグ、血漿バッグ、血漿455mL、全血セグメント90本、検査残余全血40本
145		香川県輸血検査外部精度管理調査	宮川 朱美	香川県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球3バッグ、血漿494mL
146		全衛連臨床検査精度管理調査	高木 康	公益社団法人 全国労働衛生団体連合会 臨床検査専門委員会	委員長	①	②	検査残余血清10000mL
147		臨床検査技師養成教育における輸血検査実習	山本 晃司	埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科	講師	①	①②	赤血球9バッグ、血漿8バッグ、全血セグメント40本
148		鳥取県臨床検査精度管理調査	湯田 範規	一般社団法人 鳥取県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿744mL
149		血液センター供給血を用いた輸血移植学実習	清宮 正徳	国際医療福祉大学	教授	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ
150		赤血球製剤及び血漿分画製剤における病原体不活化法の研究及びB型・C型肝炎ウイルスの培養系の確立	小林 清子	埼玉医科大学 医学部	講師	①②	①	血漿400mL
151		輸血検査学実習	高橋 あゆ子	群馬パース大学 医療技術学部 検査技術学科	助教	①	①	赤血球8バッグ、血漿256mL
152		東京都登録衛生検査所の精度管理事業	田中 朝志	東京医科大学八王子医療センター	教授	①	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ
153		山形県臨床検査技師会 輸血細胞治療部門 精度管理	木村 俊平	山形県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球3バッグ、血漿703mL
154		有効なクリオプレシビテートの院内調製	藤田 浩	東京都立墨東病院 輸血科	部長	①	①	血漿2バッグ
155		災害臨床における医学薬学共同による無人航空機(UAV)の活用 ドローンによる血液製剤搬送	藤田 浩	東京都立墨東病院 輸血科	部長	①	①	血漿6バッグ
156		微小振動環境下における赤血球の流動特性に関する実験的研究	百武 徹	横浜国立大学	教授	②	②	検査残余全血61本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
157		油症におけるダイオキシン類・PCBの人体暴露と評価手法に関する研究 ③血液中ダイオキシン類・PCB濃度測定精度管理	新谷 依子	福岡県保健環境研究所	研究員	②	①	全血692mL
158		和歌山県臨床検査技師会 臨床検査精度管理調査	田中 規仁	一般社団法人 和歌山県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿492mL
159		日臨技近畿支部における輸血講習会の開催	坊池 義浩	日本臨床衛生検査技師会 近畿支部	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球3バッグ、血漿2バッグ、血漿246mL
160		HBs抗原陽性若年献血者におけるHBワクチンエスケープ変異株の検討	四柳 宏	東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 感染症分野	教授	②	②	検査残余血漿100本
161		標準血清およびコントロール血清への使用	菅 亮彦	株式会社カイノス	研究所所長	②	①②	血漿30バッグ、検査残余血清5000本
162		ヒト血液を用いたin vitro培養系のマラリア原虫のオルガネラの解析	彦坂 健児	千葉大学大学院 医学研究院 感染症生体防御学	准教授	②	①	赤血球17バッグ、血漿12バッグ
163		公益社団法人 大阪府臨床検査技師会 ヘモグロビンA1c精度管理事業での使用	増田 詩織	公益社団法人 大阪府臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球1バッグ、血漿1バッグ
164		長野県における輸血検査教育	小嶋 俊介	信州大学医学部附属病院 輸血部	主任臨床検査技師	①	①	赤血球4バッグ、血漿4バッグ
165		献血血液等 検査残余血液(全血):EDTA採血を用いた品質確認試験(検査)	渡邊 稔也	富士フィルムヘルスケアマニュファクチャリング株式会社 三重事業所 マテリアル生産本部 第1製造部	部長	②	②	検査残余全血540本
166		輸血・移植検査学実習	今井 優樹	京都橋大学 健康科学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿635mL
167		先進医療機器のための抗血栓材料の開発	田中 賢	九州大学先端物質化学研究所	教授	②	①	全血4586mL
168		ナショナルバイオリソースプロジェクトにおけるマラリア原虫株の培養と維持管理	金子 修	長崎大学熱帯医学研究所 生物資源室	所長/教授	②	①	赤血球1バッグ
169		抗マラリア活性化合物の探索と創薬研究	和田 章	国立研究開発法人理化学研究所 生命医科学研究センター	専任研究員	②	①	赤血球24バッグ
170		臨床検査技師実習技能研修(輸血)	遠藤 隆	独立行政法人国立病院機構 関東信越グループ	臨床検査専門職	①	①	赤血球3バッグ、血漿4バッグ
171		臨床検査技師養成大学における輸血・移植検査学実習の教育・手技の修得	清水 慶久	北陸大学	教授(臨床免疫学担当)	①	①②	血漿1バッグ、血漿783mL、検査残余全血18本
172		和歌山県臨床検査技師会輸血研究班勉強会(実技)	田中 規仁	一般社団法人 和歌山県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿475mL
173		ヒト赤血球およびヒト末梢血細胞を用いたマラリア原虫生成物による免疫応答機構の解析	ジェヴァイア チョバン	東京大学医科学研究所 感染免疫部門 マラリア免疫学分野	教授	②	①	赤血球15バッグ
174		高知県精度管理調査の血液試料(保健事業目的のため)	出間 智行	一般社団法人 高知県臨床検査技師会	臨床検査技師	②	①	全血765mL
175		長崎県臨床検査技師会 輸血検査研究班活動	松永 光博	長崎県臨床検査技師会 輸血検査研究班	理事	①	①	赤血球3バッグ、血漿248mL
176		熊本県内における臨床検査精度向上のための精度管理	田中 信次	熊本県臨床検査技師会	熊本県臨床検査技師会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿1バッグ、血漿246mL
177		熱帯熱マラリア原虫薬剤耐性機構の研究	新澤 直明	東京科学大学大学院	講師	②	①	赤血球25バッグ、血漿23バッグ
178		日本赤十字社より譲渡を受けた献血血液を用いた熱帯熱マラリア原虫培養系を利用した、マラリアワクチン、薬剤、診断法の評価系の開発	狩野 繁之	国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究センター	熱帯医学・マラリア研究部長	②	①	赤血球24バッグ、血漿24バッグ
179		輸血前検査の精度管理(東京都立病院機構 東京都立病院検査科輸血分野別検討会統一精度管理(凝集サーベイ))	柏谷 淳	東京都監察医務院	検査科科长	①	①	赤血球3バッグ
180		(一社)秋田県臨床検査技師会精度管理調査	佐藤 郁恵	秋田県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球1バッグ
181		(一社)秋田県臨床検査技師会輸血細胞治療部門実技研修会	佐藤 郁恵	(一社)秋田県臨床検査技師会	輸血細胞治療部門長	①	①	赤血球2バッグ
182		群馬県臨床検査精度管理調査	松井 直紀	一般社団法人 群馬県臨床検査技師会	精度保証部精度管理委員会委員長	①	①	赤血球5バッグ、血漿4バッグ、血漿774mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
183		2年次 輸血・移植検査学実習	原田 光一郎	西武学園医学技術専門学校	校長	①	①	赤血球12バッグ、血漿4バッグ
184		北海道医療大学 医療技術学部 輸血・移植学実習	幸村 近	北海道医療大学 医療技術部	学部長・教授	①	①②	赤血球5バッグ、血漿1バッグ、血漿1170mL、全血セグメント240本、検査残余全血16本
185		青森県臨床検査技師会 輸血・細胞治療部門 精度管理調査	栗石 宏美	青森県臨床検査技師会	学術班 輸血・細胞治療部門 部門長	①	①	赤血球2バッグ、血漿885mL
186		ヒト血液を用いたマラリア原虫の培養	徳外 富由樹	群馬大学大学院 保健学研究科 生体情報検査科学講座	教授	②	①	赤血球13バッグ、血漿3バッグ
187		発熱性物質評価法の開発	林 克彦	国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部	主任研究官	②	①	全血5649mL
188		iPS細胞由来のHLAクラスI欠失巨核球細胞のストックおよび血小板産生に関する研究	江藤 浩之	京都大学iPS細胞研究所	教授	①	①	血漿4バッグ、血漿1407mL、血小板7バッグ、血小板274mL
189		熱帯熱マラリア原虫の培養系を用いた抗マラリア新規治療薬の探索	北 潔	長崎大学 熱帯医学・グローバルヘルス研究	教授	②	①	赤血球51バッグ
190		輸血学実習授業のための譲渡血	高山 成伸	大東文化大学 スポーツ・健康科学部	教授	①	①	赤血球11バッグ、血漿5バッグ
191		学生に対する教育目的(輸血検査の手順と結果の判断力を身につけ、血液製剤の適応と選択ができる。)	古井 郁恵	高知学園大学 健康科学部 臨床検査学科	講師	①	①②	赤血球9バッグ、血漿2バッグ、血漿1146mL、全血セグメント130本
192		藤田医科大学医療科学部の臨床検査技師養成教育のため	松浦 秀哲	藤田医科大学 医療科学部	准教授	①	②	検査残余全血60本
193		東京都臨床検査技師会 輸血レベルの向上を目指した教育的使用	原田 典明	公益社団法人 東京都臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球6バッグ、血漿6バッグ
194		茨城県臨床検査技師会による所属施設への輸血検査業務支援(実技研修会)	岩田 幸広	公益社団法人 茨城県臨床検査技師会	生命倫理検査部門 輸血・移植検査分野 分野長	①	①	赤血球3バッグ、血漿1バッグ、血漿469mL
195		熊本県内における臨床検査精度向上のための輸血検査技術講習会の実技指導	田中 信次	熊本県臨床検査技師会	熊本県臨床検査技師会 会長	①	①	赤血球4バッグ、血漿703mL
196		犯罪鑑識を目的とした血液の利用について	谷口 真司	滋賀県警察本部 刑事部 科学捜査研究所	総括研究員	②	②	検査残余全血22本、検査残余血清20本
197		長崎県臨床検査技師会 輸血検査研究班活動	潮屋 春菜	長崎県臨床検査技師会 輸血検査研究班	班長	①	①②	赤血球3バッグ、血漿250mL、全血セグメント60本
198		グリコアルブミン検査試薬の開発	伊藤 成史	株式会社PROVIGATE 研究開発本部	CTO	②	②	検査残余血清134本
199		輸血検査に関する実習	安田 好徳	学校法人西野学園 札幌医学技術福祉歯科専門学校 臨床検査技師科	専任教員	①	①②	赤血球2バッグ、血漿4バッグ、全血セグメント80本
200		輸血検査精度管理調査	松本 雅則	日本輸血・細胞治療学会	理事長	①	①	赤血球15バッグ、血漿12バッグ
201		ウルトラファインバブル酸素含有血液ろ過用補充液を用いた血液酸素化の研究	宮園 素明	佐賀大学医学部附属病院 腎臓内科	准教授	②	①	赤血球7バッグ
202		COVID-19を中心とした新興感染症に対する免疫基盤研究	藤井 眞一郎	国立研究開発法人理化学研究所 生命医科学研究センター	免疫細胞治療研究チーム チームディレクター	②	①	全血16067mL
203		麻酔薬および免疫チェックポイント分子の腫瘍免疫、移植免疫に及ぼす影響の研究	鬼塚 信	九州医療科学大学 社会福祉学部	教授	②	②	白血球除去後フィルター6個
204		千葉県臨床検査技師会精度管理調査ならびに千葉県検査値統一推進事業	布施 義也	一般社団法人 千葉県臨床検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ
205		京都府臨床検査技師会 精度管理調査	相田 幸雄	一般社団法人 京都府臨床検査技師会 輸血研究班	班長	①	①	赤血球2バッグ、血漿479mL
206		マイクロ流路デバイスを用いた白血球分離手法の開発	田口 明	京セラ株式会社 EPデバイス開発部	EPデバイス開発部 責任者	②	②	検査残余全血327本
207		質量分析法を用いたヒト体液中薬物検出手法の評価	石井 晃	名古屋大学大学院 医学系研究科 法医・生命倫理学	教授	②	①	全血1159mL
208		揮発性毒物検査法実習	数井 優子	科学警察研究所 法科学第三部化学第五研究室	室長	②	②	検査残余全血20本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
209		臨床検査技師養成校における輸血検査教育・実習	三浦 里織	福島県立医科大学 保健科学部 臨床検査学科	科目責任者	①	①②	赤血球10バッグ、血漿2349mL、検査残余全血8本
210		輸血検査学実習における学生教育の実施	魚住 諒	日本医療大学 保健医療学部 臨床検査学科	講師	①	①②	赤血球4バッグ、血漿3バッグ、血漿298mL、全血セグメント280本、検査残余全血140本
211		輸血検査教育(実技)による使用	高橋 浩之	東邦大学医療センター 大森病院	教授	①	①	赤血球17バッグ、血漿5バッグ
212		輸血検査実技講習会	内海 伴教	三重県合同輸血療法委員会	技師部会担当	①	①	全血393mL、赤血球1バッグ、血漿1バッグ、血漿259mL
213		新生児マススクリーニング検査の外部精度管理検体(PT検体、QC検体)の製造	篠塚 直樹	札幌イムノダイアグノスティック・ラボラトリー	課長	②	①②	赤血球12バッグ、血漿2バッグ、白血球除去後フィルター2個
214		新生児マススクリーニング用体外診断用医薬品・研究用試薬のスタンダード濾紙血液及びコントロール濾紙血液への使用	山田 博紀	株式会社第一岸本臨床検査センター	次長	②	①	赤血球55バッグ、血漿2バッグ、血漿4076mL
215		第2学年対象 輸血・移植検査学実習および技能習得達成度評価	木村 美智代	新渡戸文化短期大学 臨床検査学科	准教授	①	①	赤血球30バッグ、血漿25バッグ、血漿1520mL
216		感染症検査試薬の性能評価	佐々木 典子	アポットジャパン合同会社 総合研究所	製品研究室 室長	①②	①	血漿9バッグ、血漿27848mL
217		血液検査学実習	山本 哲志	近畿大学薬学部	准教授	①	①	全血295mL
218		鹿児島県医師会臨床検査精度管理調査	牧角 寛郎	公益社団法人 鹿児島県医師会	会長	①	①	赤血球2バッグ
219		学内における第3学年対象の輸血・移植検査学実習(輸血検査部分)および同科目内容の学内臨床実習	横尾 智子	日本医療科学大学 保健医療学部 臨床検査学科	教授	①	①	赤血球19バッグ、血漿18バッグ、血漿1308mL
220		京都府臨床検査技師会 精度管理調査	和田 香織	一般社団法人 京都府臨床検査技師会 臨床化学免疫血清研究班	精度管理担当者	①	①	赤血球2バッグ
221		献血者における梅毒流行株についての解析	安達 英輔	東京大学医学部研究所附属病院 感染免疫内科	講師	②	②	検査残余全血107本、検査残余血漿100本、検査残余血清100本
222		新規パルボウイルスワクチンの開発	蝦名 博貴	一般財団法人 阪大微生物病研究会	研究開発部 部長	②	①	血漿6バッグ、血漿5411mL
223		「白血球除去工程後のフィルター」に含まれる白血球分画のフィーダー細胞としての機能評価	菅原 正貴	慶應義塾大学	特任助教	②	②	白血球除去後フィルター15個
224		北海道臨床衛生検査技師会 輸血部門 輸血精度管理調査	早坂 光司	北海道臨床衛生検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿2バッグ
225		マラリア原虫の増殖機構の解明と抗マラリア薬の開発	東岸 任弘	長崎大学 医歯薬学総合研究科 免疫学分野	講師	②	①	赤血球14バッグ
226		臨床免疫学実習(輸血実習)	柱本 照	神戸大学大学院 保健学研究科	教授	①	①	血漿241mL
227		血中薬物濃度測定とその精度管理	菅原 満	北海道大学病院 薬剤部	薬剤部長・教授	②	①	血漿906mL
228		順天堂大学医療科学部臨床検査学科3年次輸血・移植検査学実習における使用	長岡 功	順天堂大学 医療科学部	学部長	①	①	赤血球8バッグ、血漿8バッグ
229		適切な温度管理下で血液搬送	藤田 浩	東京都立墨東病院 輸血科	部長	①	①	赤血球9バッグ、血漿19バッグ
230		京都大学医学部人間健康科学科における輸血検査実習	松尾 英将	京都大学 医学部 人間健康科学科	准教授	①	①	赤血球2バッグ、血漿600mL
231		細胞培養システムを用いた作製血小板の研究	松原 由美子	株式会社AdipoSeeds	取締役	①	①	血小板9バッグ
232		体外診断用医薬品の開発	佐々木 典子	アポットジャパン合同会社 総合研究所	製品研究室 室長	①②	①	血漿750mL
233		輸血・移植検査学実習	内山 孝由	新潟薬科大学	講師	①	①	赤血球12バッグ、血漿6バッグ、血漿500mL
234		既存ヘルパーT細胞を活用した新規ワクチンの基盤構築	寺原 和孝	国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 ワクチン開発研究センター	主任研究員	②	①	全血9674mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血液の使用目的 (※1)	献血液の区分 (※2)	献血液の種類、量など
235		公益社団法人兵庫県臨床検査技師会 輸血研究班活動	大塚 真哉	兵庫県臨床検査技師会	輸血研究班班長	①	①	赤血球4バッグ、血漿2バッグ、血漿255mL
236		病原性抗酸菌の赤血球接着型増殖メカニズムの解明と新薬開発	西内 由紀子	広島大学	主幹特任学術研究員	②	①	赤血球3バッグ、血漿670mL
237		GD2キメラ抗原受容体導入T細胞による難治性固形がん治療の臨床応用へ向けた基礎研究	高橋 義行	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学医学部附属病院 小児科	教授	②	②	白血球除去後フィルター12個
238		輸血・移植検査学(学生実習)における、輸血検査に必要な基本的な技術の取得	武田 湖州恵	中部大学	准教授	①	①②	赤血球3バッグ、血漿755mL、全血セグメント150本、検査残余全血50本
239		血小板エクソソームを用いた脳梗塞治療薬開発(脳梗塞慢性期における機能回復を目的とした血小板エクソソーム治療の研究)	上野 祐司	山梨大学 内科学講座神経内科学教室	教授	②	①	血小板2358mL
240		ヒト血液を利用した再構成糖鎖プロファイルによる疾患診断	戸谷 希一郎	成蹊大学 理工学部	教授	②	①	全血4858mL
241		ヒトリンパ球亜集団の細胞傷害活性および免疫抑制活性を制御する新規タンパク質分子の創製	井上 雅己	神戸学院大学	講師	②	①②	全血244mL、白血球除去後フィルター17個
242		血液凝固線溶反応に関する実習	鈴木 優子	浜松医科大学	教授	①	①	血漿110mL
243		死細胞の取り込みにより誘導されるマクロファージの極性変化に関する基礎研究	大谷 健太郎	国立循環器病研究センター	研究室長	②	②	白血球除去後フィルター64個
244		B2GPI試薬製造工程変更	唐澤 智司	株式会社医学生物学研究所 技術生産本部	本部長	②	①	血漿200バッグ
245		ヒト新鮮凍結血漿を用いたセルブロック作成法の検討	若狭 朋子	近畿大学奈良病院	教授	②	①	血漿5バッグ
246		末梢および組織における制御性T細胞と樹状細胞の機能メカニズムの解明	山崎 小百合	名古屋市立大学大学院 医学研究科 免疫学	教授	②	②	白血球除去後フィルター6個
247		輸血・移植検査学実習	仲西 功	近畿大学薬学部	教授	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿257mL
248		輸血用赤血球製剤の急速輸血に伴う機械的溶血に関する研究	牧 盾	九州大学病院 集中治療部	診療准教授	①	①	赤血球6バッグ
249		ヒト末梢血を用いた免疫応答の解析	河上 裕	国際医療福祉大学 医学部	教授	②	①②	全血1962mL、白血球除去後フィルター8個
250		ヒト血液中薬剤モニタリング用センサの開発	吉見 靖男	芝浦工業大学	教授	②	②	検査残余血清325本
251		HBsAg測定試薬の性能評価	小田原 卓哉	シスメックス株式会社 診断薬エンジニアリング本部	主任研究員	②	①	血漿1220mL
252		白血球除去工程後のフィルター内血液を利活用した細胞培養添加剤 Platelet lysate の調製に係る検討	對比地 久義	コージンバイオ株式会社	取締役	②	②	白血球除去後フィルター90個
253		輸血医療に関する医療従事者の手技向上にかかわる研修	大坂 忠一	自衛隊中央病院 診療技術部	臨床検査課長	①	①	赤血球116バッグ
254	○	令和7年度 徳臨技・四県合同研修会(輸血検査研究班)	元木 一志	一般社団法人 徳島県臨床検査技師会	会長	①	①②	赤血球6バッグ、血漿1バッグ、血漿1446mL、全血セグメント60本、検査残余全血2本
255	○	ヒト赤血球に対するニホンザル由来 Bartonella quintana 株の感染性の検討	佐藤 真伍	日本大学 生物資源科学部	准教授	②	②	全血396mL、検査残余全血20本
256	○	輸血・移植検査学の学生実習	中川 泰久	岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科	准教授	①	①	全血2817mL、赤血球14バッグ、血漿2バッグ、血漿2347mL
257	○	2025年度日臨技九州支部輸血細胞治療部門研修会	倉重 康彦	一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会	九州支部長	①	①	赤血球7バッグ、血漿1034mL
258	○	臨床検査学教育実習	田口 洋介	鹿児島天文館メディカルカレッジ 臨床検査学科	学科長	①	①②	赤血球5バッグ、血漿1バッグ、血漿936mL、全血セグメント70本、検査残余全血10本
259	○	一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 中四国支部実技実習	檜林 秀記	一般社団法人 日本臨床検査技師会 中四国支部	中四国支部長	①	①	赤血球3バッグ、血漿473mL
260	○	ナチュラルキラー細胞を用いた造血器悪性腫瘍に対する免疫療法の研究開発	鍋倉 幸	愛知県がんセンター 研究所 腫瘍免疫応答研究分野	分野長	②	①	全血3829mL

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
261	○	質量分析等の新たな分析法に利用する標準物質およびコントロール物質の製造	平岡 敬朗	株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE	Solutions COE センター長	②	①②	血漿5バッグ、検査残余血清300本
262	○	総コレステロール測定用試薬及びトリグリセリド測定用試薬の性能試験等の際に自家使用する高濃度リポ蛋白画分別試薬の調製	細川 幹夫	株式会社セロテック 千歳工場	工場長	②	②	検査残余血清20000mL
263	○	ANCA試薬及び抗原製造工程変更	唐澤 智司	株式会社医学生物学研究所 技術生産本部	本部長	②	②	白血球除去後フィルター34個
264	○	β2GPI抗原製造工程変更	唐澤 智司	株式会社医学生物学研究所 技術生産本部	本部長	②	①	血漿736バッグ、血漿3297mL
265	○	群馬県臨床検査技師会 輸血検査基礎実技研修会	高田 剛	一般社団法人 群馬県臨床検査技師会	学術部長	①	①	赤血球4バッグ、血漿250mL
266	○	血液製剤中の血小板及びリポ蛋白との相互作用と脂質組成解析	高橋 祐司	北海道医療大学 医療技術学部臨床検査学科	講師	②	①	血漿249mL
267	○	学生の輸血検査実技実習	須佐 梢	群馬大学医学部附属病院 輸血部	主任臨床検査技師	①	①	赤血球16バッグ、血漿14バッグ
268	○	献血血液を原料とする検体検査用コントロール物質・校正物質の開発および製造	猪井 俊敬	島津ダイアグノスティクス株式会社 製品開発部 管理血清チーム	部長	②	②	検査残余血清60000mL
269	○	薬剤によるヒト免疫担当細胞に対する影響の検討	松下 麻衣子	慶應義塾大学 薬学部 病態生理学講座	教授	②	②	検査残余全血22本
270	○	秋田大学医学部医学科一年次 生体分子解析学実習	松村 欣宏	秋田大学大学院 医学系研究科	教授	①	①	血漿224mL
271	○	臨地実習、免疫検査学実習	藤原 孝記	帝京大学医学部附属病院 輸血部	技師長	①	①	赤血球5バッグ、血漿6バッグ
272	○	血中の健康寄与成分分析法の精度管理	水光 正仁	一般社団法人 食の安全分析センター	代表理事	②	②	検査残余血漿50本
273	○	熱帯熱マラリア原虫の赤血球寄生分子機構の解析	森田 将之	川崎医科大学 解剖学教室	講師	②	①	赤血球24バッグ、血漿1796mL
274	○	検査試薬の非特異反応阻害剤の活性評価	塩田 明	株式会社特殊免疫研究所	抗体診断薬開発部部長	②	②	検査残余血清200本
275	○	研修医および臨床検査技師養成課程実習生の血液型および輸血検査実習	牧野 博	杏林大学医学部付属病院	臨床検査技師	①	①	全血1463mL
276	○	血液ポンプの長時間駆動とバイオマーカーの変動に関する探索的研究	熊野 稔	国立研究開発法人産業技術総合研究所	研究グループ長	②	①	全血7251mL、血小板446mL
277	○	凝固止血検査学実習	五十嵐 康之	北里大学 健康科学部 医療検査学科	専任教員	①	①	血漿4バッグ
278	○	体外診断試薬の製造のための品質確認試験(検査)	渡邊 稔也	富士フイルムヘルスケアマニュファクチャリング株式会社 三重事業所 マテリアル生産本部 第1製造部	部長	②	②	検査残余血清1000本
279	○	香川県立保健医療大学 臨床検査学科 輸血・移植検査学実習	宮川 朱美	香川県立保健医療大学 臨床検査学科	准教授	①	①②	全血720mL、全血セグメント5本、検査残余全血5本、検査残余血清5本
280	○	令和7年度日臨技北日本支部研修会「輸血細胞治療部門研修会」	早坂 光司	一般社団法人 北海道臨床衛生検査技師会	会長	①	①	赤血球2バッグ、血漿1バッグ、血漿225mL
281	○	氷点下の低温時での輸血用血液の保管、輸送のための梱包および保温方法の確立	薬師寺 史厚	八木医院	内科医師	①	①	赤血球4バッグ、血小板6バッグ
282	○	臨床免疫学輸血検査学学生実習	竹ノ内 博之	九州医療科学大学 生命医科学部	教授	①	①②	赤血球3バッグ、血漿750mL、全血セグメント20本
283	○	先進医療機器のための抗血栓材料の開発	広田 保史	三菱ケミカル株式会社 アドバンスフィルムズ&ポリマーズビジネスグループ R&D本部 パフォーマンスポリマーズテクノロジーセンター	センター長	②	①	全血788mL
284	○	日本文理大学 保健医療学部臨床検査学コース 免疫検査学実習および輸血・移植検査学実習	松井 智浩	日本文理大学 保健医療学部	教授	①	①②	全血1294mL、赤血球4バッグ、血漿886mL、全血セグメント60本、検査残余全血100本、検査残余血清70本
285	○	内因性ホルムアルデヒドが健康に与える影響の検討	濱田 太立	名古屋市立大学大学院 医学研究科ウイルス学分野	講師	②	②	検査残余血清500本
286	○	血球除去工程後のフィルター内血液を利活用した細胞培養添加剤 Platelet lysateの調製および社会実装を目指した検討	對比地 久義	コージンバイオ株式会社	取締役	②	②	白血球除去後フィルター960個

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
287	○	試験食品の血液中での分解に関する試験	村田 めぐみ	新田ゼラチン株式会社 総合研究所 研究部	係長	②	①	全血670mL
288	○	ヒト赤血球膜タンパク質バンド3の3次元結晶構造解析	隈 博幸	長崎国際大学薬学部	教授	②	①	赤血球27バッグ
289	○	臨床検査技師養成のための輸血検査学実習	川村 俊彦	北里大学 医療衛生学部 免疫学	教授	①	①	赤血球5バッグ、血漿8バッグ
290	○	自己免疫疾患治療を目的とした自己抗体吸着カラムの開発	木下 耕史	Link Therapeutics株式会社	研究部 シニアリサーチャー	②	①	血漿5バッグ、血漿3145mL
291	○	災害時等における医療機関間の輸血用血液製剤の譲受・譲渡(融通)の実効性の向上について	藤井 輝久	広島県合同輸血療法委員会	委員長	①	①	赤血球1バッグ、血漿221mL
292	○	インスタント血小板の作製	西川 昌輝	東京大学	准教授	②	①②	検査残余全血19本、血小板2バッグ
293	○	生体吸収性素材の細径人工血管の抗血栓性評価	紙谷 寛之	旭川医科大学 外科学講座 心臓大血管外科学分野	教授	②	①	全血354mL
294	○	消化器癌における腫瘍関連糖鎖抗原の予後マーカー、治療感受性マーカーとしての有用性に関する検討	佐伯 浩司	群馬大学大学院 医学系研究科 総合外科学講座	客員教授	②	②	全血セグメント1000本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄面分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【日本赤十字社内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		新入職員等に係る教育訓練用として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球4バッグ、血小板3バッグ
2		品質データ取得に関する検討	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	全血77バッグ、赤血球31バッグ、血漿11バッグ
3		Reveos評価に関する研究(製剤-184)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①③	全血46バッグ
4		全白血球除去フィルター(血小板通過型)に関する研究(製剤-185)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	全血45バッグ、血漿13バッグ
5		自動血球分析装置に関する研究(製剤-169)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球5バッグ、血漿4バッグ、血小板30バッグ
6		凍結乾燥血漿に関する研究(製剤-172)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	③	全血7バッグ
7		品質確認	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	全血28バッグ、赤血球10バッグ、血小板7バッグ、血漿8バッグ
8		赤血球品質に関する内部検討	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球3バッグ
9		血小板品質に関する内部検討	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿6バッグ、血小板13バッグ、血小板数測定用検体5066本
10		血小板溶解液の調製に係る研究(製剤-175、製剤-176)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	成分採血装置残余血4キット
11		血液製剤の品質に関する内部検討	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	全血3バッグ、成分採血装置残余血2キット
12		血小板溶解液の調製に係る研究(製剤-1756)の試料として	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	白血球除去後フィルター498個
13		職員の教育訓練のため	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球9バッグ、血漿5バッグ、検査残余全血1本
14		不規則抗体陽性パネルの作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿30バッグ
15		PK7400用コントロールの作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血10950本
16		不規則抗体同定用パネル血球の作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血72本
17		血液型関連パネル血球の作製	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球13バッグ
18		研修生等の実技研修	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	検査残余全血11本、セグメント(全血)16本
19		血液型検査用抗血清のスクリーニング、抗血清の確保	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血漿10本
20		血液型検査用抗血清の確保	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	③	血漿3バッグ
21		単球貪食試験(研究G)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血70本
22		不規則抗体同定検査における遺伝子組み換えタンパクの有効性評価(赤-156)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1本
23		抗K _g をはじめとする献血者血液中に含まれる低頻度抗原に対する不規則抗体の検索(赤-157)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1248本
24		献血者における補体結合性不規則抗体の保有率及び機能評価(赤-154)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1338本
25		スクリーニングNAT陽性(HBV同定)血液の確保と送付について	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿12バッグ
26		HIV検査陽性時の対応について	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	血漿2バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
27		全自動遺伝子検査装置(コバス5800システム)によるバルボB19 DNA検出系の構築およびB19抗原検査陽性検体の解析(感染-129)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球143バッグ、血漿179バッグ
28		HEV NATスクリーニングシステムの性能評価および陽性献血者検体の解析(感染-135)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿300バッグ、検査残余血清2066本
29		赤血球系前駆細胞分化過程における不規則抗体が分化抑制に及ぼす影響の解析(赤-153)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血26本
30		ABO異型血小板輸血における不応原因の血小板貪食試験による評価(白-110)	鳥本 悦宏	北海道ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血609本
31		輸血後HBV感染とHBV陽転化の因果関係についての調査及びNATコントロールサーベイに使用するため。	笹原 洋二	東北ブロック血液センター	所長	①	①	血漿15バッグ
32		FRC/FTRC製造の教育訓練で使用するため。	笹原 洋二	東北ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球1バッグ
33		血液型検査用試薬検討	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	血漿2バッグ
34		血液型検査用試薬の製造原料として和光純薬工業(株)に提供	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②③	赤血球95バッグ、検査残余全血1785本
35		検査用コントロールの作製	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球11バッグ
36		自動検査機器の精度管理用(原料血用・抗原陰性血用)	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球90バッグ、血漿1バッグ
37		不規則交体同定用パネル血球原料等	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球156バッグ
38		まれ血・垂型・抗体同定(確認・検討用)	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①③	赤血球60バッグ、血漿38バッグ
39		モノクローナル抗体試薬の製造	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球248バッグ、検査残余全血1210本
40		依頼検査用検体	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②③	血漿3バッグ、検査残余全血6868本
41		「スクリーニングNAT陽性(HBV同定)血液の確保と送付について」 「NATコントロールサーベイ等に使用するNAT陽性血液の確保について」	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿3バッグ
42		「スクリーニングNAT陽性(HBV同定)血液の確保と送付について」 「NATコントロールサーベイ等に使用するNAT陽性血液の確保について」 「HIV検査陽性時の対応について」	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿38バッグ
43		自動洗浄装置の変更に係る評価試験のため	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清16本
44		ヒトパルボウイルスB19抗原陽性血液の提供について(依頼)	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿5バッグ
45		研究課題の試料として	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血527本
46		フローサイトメーター(Navios)の精度管理	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	血算用検体3本
47		外部への譲渡血対応(感染症関連検査陰性)	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球6バッグ、血漿10バッグ
48		感染症検査陽性血液の解析、検査試薬・機器評価用パネルの作製	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	全血1バッグ
49		研究課題を遂行するための研究用試料として	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	全血20バッグ、検査残余全血18本
50		感染症検査陽性血液の解析、現行感染症検査の妥当性等に使用	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	全血3バッグ、検査残余血清1本
51		感染症陽性血液の解析、現行感染症検査の妥当性検証等に使用	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	全血1バッグ
52		血液を通じて感染するおそれがある病原体の疫学研究	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②③	血漿6バッグ、検査残余血漿220本、検査残余血清20本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
53		細菌汚染対策研究用(細菌接種実験・検出実験など)	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球27バッグ、血小板151バッグ
54		細菌スクリーニングの安全性向上に係る試験	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血小板28バッグ
55		非溶血性輸血副作用検査の健常人対照として	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血279本
56		院内分割を想定した小単位PCの検討	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血小板10バッグ
57		製剤開発に係る検討のため	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球23バッグ
58		大量出血動物モデルの開発とその改良並びに同モデル等を活用した新規血液製剤の機能評価の試料として	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血小板8バッグ
59		冷凍保存した血小板製剤のin vitro止血機能の評価	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①③	全血3バッグ、赤血球13バッグ、血漿3バッグ、血小板4バッグ、血小板測定用検体146本
60		研究グループ、研究課題の試料として	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血608本
61		照射凍結赤血球-LR「日赤」用事解凍洗浄の長期保存試験の実施に係る有効期間を満了した照射凍結赤血球を使用した予備検討	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	赤血球20バッグ
62		製剤開発に係る検討のため	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球20バッグ
63		HLA発現量調査、血小板貪食試験用パネル、抗体検出用パネル細胞の収集	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血174本
64		非溶血性輸血副作用検査の健常人対照として	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血917本
65		ABO精査	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	全血3バッグ、赤血球18バッグ、血漿15バッグ
66		HIV陽性時の対応	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿3バッグ
67		NATコントロールサーベイ等	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿29バッグ
68		Rh精査	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	全血1バッグ、赤血球8バッグ
69		検討用	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	③	血漿1バッグ
70		不規則抗体精査	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿5バッグ
71		防衛省に対する用時解凍洗浄のトレーニングの開催及びトレーニング講師の派遣について	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球8バッグ
72		HLAタイピング実施ドナーの検体確保	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清1本、血算用検体1本
73		PK用試薬の製造(和光)	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②③	赤血球3バッグ、検査残余全血384本、検査残余血漿1033本、血算用検体2本
74		血液型関連検査用コントロール及びパネルの作製	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血3265本
75		三次検査	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②③	赤血球10バッグ、血漿16バッグ、検査残余血清65本、血算用検体89本
76		用手法用血球試薬の製造	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②③	赤血球173バッグ、検査残余血漿788本、血算用検体2本
77		HTLV-1抗体追加検査方法の変更についてLIA法判定保留検体のPCR検査の実施	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①②	赤血球2バッグ、血漿2バッグ、血算用検体593本
78		HTLV-1抗体陽性血液の提供について(依頼)	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	血算用検体8本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
79		NATコントロールサーベイ等に使用するNAT陽性血液の確保について	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	①	血漿36バッグ
80		試薬の品質試験実施	岡崎 仁	関東甲信越ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清1200本
81		規格試験認定試験のサンプル	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球2バッグ、血漿4バッグ、血小板2バッグ
82		年次バリデーション用、運転時バリデーション用	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	血小板8バッグ、冷凍赤血球10バッグ
83		MR研修会	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿1バッグ、検査残余全血100本
84		PK血球試薬の本社依頼品質試験用	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血30000本
85		凝集目合わせの教育訓練	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血50本
86		苦情調査(クロスマッチ)に使用	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血50本
87		血液型検査三次検査に使用	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血2500本
88		血液型検査に使用する解離液、レクチン等の調製用	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血50本
89		血液型検査に使用する抗体試薬調製用	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	血漿1バッグ
90		血液型検査に使用する精度管理血球試薬調製用	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血2200本
91		血液型検査に使用する生理食塩液の受入試験用	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血200本
92		血液型検査に使用するパネル血球試薬調製用	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血250本
93		検査機器のバリデーション	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血800本
94		富士フィルム和光純薬への譲渡用	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1520本
95		中央血液研究所での検討	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①②	血漿31バッグ、検査残余血清1本
96		梅毒追加検査(RPR法)の陰性コントロール作成のため	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清30本
97		外観試験に係る教育訓練のため	木下 朝博	東海北陸ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球5バッグ、血漿5バッグ、血小板10バッグ
98		「ヒト血小板抗原15(HPA-15)の臨床的意義の解明に向けた多面的解析」の試料として	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血91本
99		PC-HLA関連検査に使用する試料として	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血4本
100		血小板抗体・抗原検査法検討の試料として	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血14本
101		副作用検査などの試料として	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血41本
102		PK7400用コントロールの作製	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球88バッグ
103		血液型関連検査用コントロール及びパネルの作製	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1422本、検査残余血漿6本
104		血液型検査用試薬の製造原料として富士フィルム和光純薬株式会社へ提供	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球61バッグ

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
105		精査目的	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球8バッグ、血漿29バッグ
106		モノクローナル抗体力価試験用	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血183本
107		保管日数による生化学検査結果の経時変化の検討に係る検査残余検体の収集	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清10本
108		白113の試料として	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	①②	血小板8バッグ、検査残余血清10本
109		試薬の品質試験	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余血清1280本
110		「幹-65ホーミング能から評価する造血幹細胞の組織修復能」の試料として	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	②	①②	全血1バッグ、白血球除去後フィルター104個
111		事業研究(血小板のツアリングパターンの測定のため)	木村 貴文	近畿ブロック血液センター	所長	①	①	血小板8バッグ
112		運用確認	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	③	血小板2バッグ
113		HLA検査コントロール	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血287本
114		IH血球試薬	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球30バッグ
115		PK7400コントロール	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血3061本
116		依頼検査	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血98本
117		血球試薬	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血180本
118		抗体試薬	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	③	血漿4バッグ
119		採血部門教育訓練	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血30本
120		三次検査	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血534本
121		二次検査コントロール	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血60本
122		品質試験	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血32本
123		血液型の精査(ABO型、Rh型、まれ血)	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	③	赤血球11バッグ
124		血液型関連検査コントロール	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1本
125		不規則抗体陽性血漿および亜型血漿の収集	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	①	血漿13バッグ
126		HIV陽性のため	芦田 隆司	中四国ブロック血液センター	所長	①	①	全血3バッグ、血漿290バッグ
127		HLAタイピング試薬の受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1本
128		ICFA-2試薬の受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1本
129		ICFA試薬品質試験(LOT.EOA)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血6本
130		ICFA試薬品質試験(LOT.EOC)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血6本

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
131		PC-HLA交差適合試験教育訓練用	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血5本
132		Quickgene DNA whole blood kit S 受入試験	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1本
133		教育訓練用	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血1本
134		血液型一次検査 PK用コントロールとして	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球99バッグ
135		研修用	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	血漿1バッグ
136		抗原陰性血スクリーニング用コントロールとして	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	②	検査残余全血510本
137		NAT試薬変更に伴うNAT陽性血液の解析およびNATコントロールサーベイ島に使用するNAT陽性血液の確保	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	全血1バッグ、血漿35バッグ
138		NATスクリーニング陰性検体の通知文検討	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	血漿2バッグ
139		HTLV-1抗体一次検査陰性献血者における追加検査陽性/保留判定の要因検討(感染-133)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①②	全血17バッグ、血漿621バッグ、血小板1バッグ、検査残余全血179本、検査残余血清663本
140		血液事業研究感染-133およびAMED研究班での検討検体として使用	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球4バッグ、血漿3バッグ
141		血液事業研究の基礎データ取得ならびにパイロットテストとして使用	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球33バッグ
142		迅速HTLV検査法の開発およびHTLV検査普及に向けた取り組み(R070019)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	②	②	検査残余全血438本
143		生体内自然免疫による殺菌作用を利用した血液製剤の安全性向上のための基礎研究(細菌-25)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①②	全血20バッグ、血小板8バッグ、検査残余全血50本
144		生体内自然免疫による殺菌作用を利用した血液製剤の安全性向上のための基礎研究(細菌-25)/HTLV-1抗体一次検査陰性献血者における追加検査陽性/保留判定の要因検討(感染-133)	松崎 浩史	九州ブロック血液センター	所長	①	①	赤血球22バッグ

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じないもの

献血血液等の研究開発等への使用に関する報告

【KMバイオロジクス社内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		KMバイオロジクス株式会社 自己使用 (試験方法、製法改良、収率改善、試作製造などの研究開発、薬事対応用のデータ取得)				①	②	FII + III遠心上清 5.1L FV遠心上清 4L アルブミン50mL製剤小分 28本 アルブミン中間体 4.155L アルブミン中間体 460kg トロンピン原画分 8.212L フィブリノゲン原画分 1000g フィブリノゲン原画分 54mL フィブリノゲン中間体 2.6L フィブリノゲン中間体 66.2kg 血液凝固第IX因子原画分 2mL 血液凝固第X因子原画分 1803mL 血液凝固第XIII因子原画分 10mL 血液凝固第XIII因子中間体 27.4kg 血液凝固第XIII因子中間体 40mL 沈殿V 1210kg
2		KMバイオロジクス株式会社 自己使用 (製法改良)				①	③	クリオ上清 4.1L クリオ上清圧送後 0.1L F I 遠心上清 0.1L グロブリン中間体 277.78L グロブリン2500mg製剤小分 80本 沈殿II + III 200kg 血漿 6000L

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

【日本血液製剤機構への申請】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1	○	川崎病モデルマウス心臓由来細胞の解析による ヴェノグロブリンIHの治療効果作用機序の解明、 新規治療ターゲットの探索		岡山大学 学術研究院医歯薬 学域 小児地域医療学講座	准教授(特任)	①	①	献血ヴェノグロブリンIH10%静注(5g):1本
2	○	ADR-LPS敗血症モデルマウスにおけるATおよび rsTMの効果の検討		国立大学法人鳥根大学医学 部 麻酔科学講座	教授	①	①	ノイアート静注用(500単位):2本
3	○	血漿由来第Ⅷ因子の生化学的および免疫学的基 礎研究		奈良県立医科大学 小児科	教授	①	①	クロスエイトMC静注用(3000単位):707本
4		感染症またはがんに対するAlpha-1-Acid glycoprotein(AGP)変体体の治療効果		①京都薬科大学 薬剤学分 野 ②和歌山県立医科大学 薬 学部 薬剤学研究室	①教授 ②助教	①	②	上清V:50L
5	○	医薬品製造用限外濾過膜の開発		旭化成 膜・水処理事業部 マイクロザ技術開発部	-	②	①	献血アルブミン25%静注(12.5g):3本 献血ヴェノグロブリンIH10%静注(5g):4本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄面分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

【日本血液製剤機構への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	①	ハプトグロビン静注:1本 献血ウエノグロブリンIH10%静注(5g):5本 献血ウエノグロブリンIH10%静注(10g):2本 フィブリノゲンHT静注用:6本 クロスエイトMC静注用(3000単位):60本 献血アルブミン5%静注(5g):1本 献血アルブミン5%静注(12.5g):12本 献血アルブミン20%静注(10g):16本 赤十字アルブミン25%静注:6本
2		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	②	沈殿Fraction I ペイスト残渣:10 kg 沈殿Fraction IV:200 g
3		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	③	凝固因子製剤用原料血漿:12 L プール血漿:200 mL クリオプレシビテート:6.0 kg 沈殿Fraction V:32 kg 沈殿Fraction V-2:2.0kg 沈殿Fraction V カラムバイパス:14.5kg アルブミン製造工程中間体13.5L 赤十字アルブミン25%静注:5本 献血ウエノグロブリンIH10%静注(5g)分注品:2本 献血ウエノグロブリンIH10%清澄ろ過液:2.8 L 献血ウエノグロブリンIH10%分別液:1.2 L
4		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				②	①	献血ウエノグロブリンIH10%静注(5g):21本 献血ウエノグロブリンIH10%静注(10g):2本 献血ウエノグロブリンIH10%静注(20g):2本 クロスエイトMC静注用(250 単位):1本 クロスエイトMC静注用(500 単位):6本 クロスエイトMC静注用(1000 単位):9本 クロスエイトMC静注用(2000 単位):7本 献血アルブミン5%静注(12.5 g):1本 赤十字アルブミン25%静注:15本 フィブリノゲンHT静注用:5本 ハプトグロビン静注:3本
5		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				②	②	沈殿Fraction I : 510 g
6		JB 機構内研究 (新規薬効探索、作用機作解明、新製剤の開発・適応拡大、製法改良、試験製造などの研究開発)				②	③	プール血漿:8.158L Eff. I :595 mL 沈殿Fraction II + III :1014 g 上清Filt. II + III :980 mL カラム通過Filt. II + III :260 mL AT-III 溶出液:260 mL 沈殿Fraction V :280 g QAEカラム溶出液:1 L CMカラム溶出液:1 L

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの

【武田薬品工業株式会社内への提供】

受付番号	新規	研究開発等課題名	研究責任者氏名	所属機関名	職名	献血血液の使用目的 (※1)	献血血液の区分 (※2)	献血血液の種類、量など
1		武田薬品工業株式会社内研究 (新製剤の開発、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	③	献血グロベニン-1 中間体:31.8L
2		武田薬品工業株式会社内研究 (新製剤の開発、製法改良、試験製造などの研究開発)				①	③	沈殿: Fraction V : 300g 沈殿: Fraction V-2: 300g 献血アルブミン25%静注(12.5g):1本

※1 献血血液の使用目的	① 血液製剤の有効性・安全性及び献血の安全性の向上を目的とした使用
	② 国の公衆衛生の向上を目的とした使用
※2 献血血液の区分	① 血液製剤の規格等に適合しない血液(検査により不適合となった血液、販売されず有効期限切れの血液製剤)
	② 血液製剤の製造に伴って副次的に得られる献血血液又は中間生成物(検査用検体の残余血液、保管年限(11年)を超えた調査用の血液、血液製剤の製造過程で得られる廃棄画分)
	③ 血液製剤の規格等に適合する献血血液等であって血液製剤の安定供給に支障の生じない量のもの